

ヘルスイノベーションスクール 取組状況概要（令和6年5月作成）

ヘルスイノベーション研究科（SHI） イノベーション政策研究センター（CIP）

○ 沿革

- ・ 平成31年4月に新たな大学院として、ヘルスイノベーション研究科（定員：1学年15人）を川崎市殿町の国際戦略拠点「キング スカイフロント」に開設するとともに、ヘルスイノベーション研究科（SHI）の教育研究の取組みを活かし、政策立案支援や学術研究・社会実装の推進に機動的に対応するため、全学の附置機関としてシンクタンク機能を担う組織であるイノベーション政策研究センター（CIP）を設置
- ・ 令和3年4月にヘルスイノベーション研究科博士課程を設置（定員：1学年2人）

1 ヘルスイノベーション研究科（SHI）における主な取組み

○ 教育理念

- ・ 修士課程

きわめて早いスピードで進む高齢化や少子化による人口構造及び社会システムの変化、グローバル化や個別化医療の進展等の現代社会の動向を踏まえ、「未病」コンセプトをベースに、保健・医療・福祉に関わる社会制度や社会自然環境が人々の健康や安全に及ぼす影響を体系的に理解し、政策立案・マネジメント能力に優れた公衆衛生における高度な専門人材を育成することを目指す。

- ・ 博士課程

現代における保健・医療・福祉の諸課題を深く理解し、科学的根拠に基づいた革新的な課題解決の方策を提示することを通じて、保健医療における新たな社会的・経済的価値を生み出すことができる能力を身につけた国際的高度専門人材を育成することを目指しています。さらに、研究・産業・保健医療提供・行政などそれぞれの領域において、国内外にリーダーシップを発揮できることを目指す。

○ 講義の特徴・スタイル

- ・ 社会人でも学びやすい環境を提供するため、講義は平日夜間と土曜日に開講し、新型コロナウイルス感染拡大前より、メディアを併用した授業も一部で開講している。
- ・ アクティブラーニングを積極的に取り入れ、能動的学習を促進し、グループワークやプレゼンテーション等を取り入れた授業を行っている。
- ・ 必修科目をはじめ多くの授業を英語で開講し、英語による授業のみでも修了が可能となっており、留学生に大きく門戸を開き、国際化を図っている。

○ 学生に関する状況

令和 6 年 5 月 1 日現在 単位：名

- ヘルスイノベーション研究科修士課程 43 名〔留学生 6 名〕

入学年度	出願者	受験者	合格者	入学者	修了者	在籍者
H31 (1 期生)	23 (3)	23 (3)	18 (3)	17 (3)	16 [1]	—
R2 (2 期生)	23 (10)	23 (10)	19 (8)	19 (8)	15 [2]	3
R3 (3 期生)	19 (13)	19 (13)	18 (12)	18 (12)	16 [4]	2
R4 (4 期生)	26 (8)	24 (8)	19 (6)	18 (6)	11 [1]	6
R5 (5 期生)	19 (2)	19 (2)	16 (2)	14 (1)	—	14 [3]
R6 (6 期生)	22 (6)	22 (6)	19 (4)	18 (4)	—	18 [3]

- ヘルスイノベーション研究科博士課程 10 名〔留学生 1 名〕

入学年度	出願者	受験者	合格者	入学者	修了者	在籍者
R3	5	5	5	5	3	2 [1]
R4	4	4	4	4	—	4
R5	2 (1)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	—	1
R6	3	3	2	2	—	2 [1]

* ()内の数字は第二期募集の人数 []内の数は留学生

* 修了者＋在籍者と、入学者の差は中途退学者（1・2・4 期生：各 1 名）

- 奨学生選抜の状況

単位：名

	出願者	受験者	合格者	⇒	入学試験受験者	入学試験合格者	入学手続完了者
R2 年度	4	4	1		1	1	1
R3 年度	7	7	4		4	4	4
R4 年度	4	2	1		1	1	1
R5 年度	5	5	4		4	3	3
R6 年度	9	9	3		3	3	3

* 平成 31 年度は奨学生選抜制度なく、通常入学試験（奨学金受給者は 1 名）

○ 職員の状況（令和6年5月1日現在）

単位：名

	教授	准教授	講師	助教	事務職員・研究員	計
ヘルスイノベーション研究科 (イノベーション政策研究センター)	8	3	5 ※	1	12【6】	29【6】

＊ 【 】は県からの派遣職員(内数)、契約職員は含まない。

※ 特任教員1名を含む。

【教育】

- ・ 対面とオンラインによるハイブリッド授業が可能な体制を整え、ICT ツールを活用したグループワーク等のアクティブラーニングを実施するなど、教育の質を落とさずに授業を行っている。

ヘルスイノベーション研究科の教員（常勤・一般、令和6年5月1日現在）

教員名	研究・専門分野
鄭 雄一 / 教授 / 研究科長	人間医工学／人間情報学／社会医学
島岡 未来子 / 教授 / 副研究科長	起業家教育／非営利組織経営／ステークホルダーマネジメント／協働ガバナンス
津野 香奈美 / 教授	社会医学／疫学／公衆衛生学／行動科学／精神保健学
徳野 慎一 / 教授	社会医学／災害医学／医療工学／音声病態分析学
成松 宏人 / 教授 (イノベーション政策研究センター長)	臨床疫学／公衆衛生学／個別化医療
Yoo, Byung - Kwang / 教授	医療経済学 / 医療政策
吉田 穂波 / 教授	母子保健 ICT／社会医学／健康科学／周産期疫学／人材育成／災害時母子支援に関する研究・政策提言
渡邊 亮 / 教授 (イノベーション政策研究センター副センター長)	病院管理学／医療管理学／医療情報学／医療経済学／保健医療政策
下畑 宣行 / 准教授	医療技術評価
中田 はる佳 / 准教授	研究倫理／保健学
中村 翔 / 准教授	疫学／予防医学／地域保健／臨床腫瘍学
黒河 昭雄 / 講師	行政学／公共政策／レギュラトリーサイエンス／医療イノベーション政策／科学技術イノベーション政策
Thomas Svensson / 講師	睡眠・ストレス／疫学／行動医学／予防医学
根本 裕太 / 講師	公衆衛生学／老年学／健康科学
久保田 悠 / 講師	口腔衛生学／小児歯科学／予防歯科学
Yichen Shen / 助教	医療経済学

(SHI 教員紹介ホームページ <https://www.shi.kuhs.ac.jp/education/faculty/>)

2023 年度教育研究活動報告書 https://www.kuhs.ac.jp/news/details_01520.html

神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科 2024年度カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			講義言語	備考 区分毎 計42単位 以上 修得
			必修	選択	講義	演習	実験・実習		
共通科目	未病特論	1後	1		○			英語	4単位 以上 修得
	ヒューマンサービス特論	1前		1	○			日本語	
	ヘルスイノベーション概論	1前	1		○			英語	
	データサイエンス	1前	1		○			英語	
	ヘルスイノベーションにおける「責任ある研究・イノベーション(RRI)」Ⅰ	1後	1		○			英語	
	小計(5科目)	—	4	1	—	—	—	—	
公衆衛生学基礎科目	疫学概論	1前	2		○			英語	14単位 以上 修得
	疫学研究	1前		2		○		日本語	
	疫学研究(英語)	1前		2		○		英語	
	疫学演習	1後		2		○		日本語	
	疫学演習(英語)	1後		2		○		英語	
	臨床研究マネジメント	2前		1	○			日本語	
	小計(6科目)	—	2	9	—	—	—	—	
	生物統計学基礎	1前	2		○			英語	
	生物統計学実践	2前		2		○		英語	
	研究の技法	2前		1	○			日本語・英語	
	小計(3科目)	—	2	3	—	—	—	—	
	健康行動科学	1前	2		○			英語	
	ヘルスコミュニケーション	1後		2	○			日本語	
	フィールド調査・研究方法	1前		2		○		英語	
	社会健康学・社会疫学	1後		2	○			日本語	
	小計(4科目)	—	2	6	—	—	—	—	
	環境保健学	1前	1		○			英語	
	産業保健学	1後		2	○			日本語	
	産業保健学演習	2前		1		○		日本語	
	小計(3科目)	—	1	3	—	—	—	—	
	健康・医療政策	1前		2	○			英語	
	国際保健政策	1後		1	○			英語	
	医療経済学	1前	2		○			英語	
	ヘルスケア管理学	2前		2	○			日本語	
	小計(4科目)	—	2	5	—	—	—	—	
	小計(20科目)	—	9	26	—	—	—	—	
ヘルスイノベーション専門科目	健康危機管理論A(英語)	1後		1	○			英語	6単位 以上 修得
	健康危機管理論B(日本語)	1後		1	○			日本語	
	未病社会のライフデザイン	1後		2	○			英語	
	ヒューマン・ニュートリション	1前		1	○			英語	
	ファイナンス・アカウンティング	1後		2	○			英語	
	マーケティング・ストラテジー	1後		2	○			英語	
	医療技術評価	2前		2		○		日本語	
	健康教育劇場／Health Education Theater	1後		2		○		日本語・英語	
	口腔保健特論	2前		2	○			英語	
	レギュラトリーサイエンス概論	1後		1	○			日本語	
	小計(10科目)	—	0	16	—	—	—	—	
実践・特別研究科目	アカデミックプレゼンテーション	1前		1		○		英語	11単位 以上 修得
	アカデミックライティング	1前		1		○		英語	
	アントレプレナーシップⅠ(アイデア創出)	1後		1		○		英語	
	アントレプレナーシップⅡ(ビジネスモデル仮説検証)	2前		2		○		英語	
	政策分析・政策立案演習	1後		2		○		日本語	
	フィールド実習ⅠA	1-2通		2			○	日本語・英語	
	フィールド実習ⅠB	1-2通		2			○	日本語・英語	
	フィールド実習ⅡA	1-2通		4			○	日本語・英語	
	フィールド実習ⅡB	1-2通		4			○	日本語・英語	
	ヘルスイノベーション演習基礎	1後	2			○		日本語・英語	
	ヘルスイノベーション演習	2通	6			○		日本語・英語	
	小計(11科目)	—	8	19	—	—	—	—	
合計(46科目)		—	21	62	—	—	—	—	
学位又は称号		修士(公衆衛生学)		学位又は学科の分野		保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)			
卒業要件及び履修方法					授業期間等				
①必修科目21単位、選択科目から21単位以上を修得し、42単位以上修得すること。 ②科目区分ごとに、共通科目から4単位以上、公衆衛生学基礎科目から14単位以上、ヘルスイノベーション専門科目から6単位以上、実践・特別研究科目から11単位以上を修得すること。 ③修了要件は、2年以上在学し、所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受け、課題研究もしくは修士論文の審査に合格すること。					1学年の 学期区分		2期		
					1学期の 授業期間		15週		
					1時限の 授業時間		90分		

【地域連携】

- ・ 県や県内団体とも連携し、研究科の関連分野について、教員による教育・啓発活動を行うとともに、委員・アドバイザー等として事業に参画した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応として、研究科教員が、県対策本部や県内保健所において、搬送調整や積極的疫学調査、療養相談等を支援した。（令和 2～5 年度）

神奈川県、県内団体に関連した、講師等の教育・啓発活動（令和元～5 年度）

事業名等	担当教員	概要・主催・備考等
未病産業研究会 ワークショップ(CIP 事業)	黒河	ヘルスケア分野における新規事業のビジネスプロセスに関する研究プロジェクト（令和 3 年度）
未病産業研究会「超入門・公衆衛生学講座」（CIP 事業）	岡本 ほか※	（令和元～2 年度） ※渡邊、徳野、成松、川村、方、津野
未病産業研究会 第 3 回全体会	成松	ME-BYO コホートを活用した未病指標の展開（令和 4 年度）
神奈川県労働福祉協会 神奈川県労働大学講座	津野	職場のハラスメント防止対策の講師（令和 2 年度～）
藤沢市 市民フォーラム講師	成松	ヘルスケア MaaS が拓く地域コミュニティの未来（令和 4 年度）
神奈川県未病アンバサダー事業研修講師	吉田	神奈川県政策局 いのち・未来戦略本部室（平成 30 年度～）
講座「からだ性と性の相談」	吉田	横浜市男女共同参画推進協会（令和 2 年度）
助産師職能研修会「災害時母子救護の現状」	吉田	神奈川県看護協会（令和 2 年度）
医療現場におけるイノベーション創出（実践教育センター）	島岡	医療従事者を対象に、デザイン思考を用いたワークショップを実施（令和 2 年度～）
ガバナンスとアカウントビリティ（実践教育センター）	島岡	医療従事者（サードレベル）を対象に、施設の現状を踏まえた課題を抽出（令和 2 年度～）
神奈川県の新型コロナウイルス対策啓発ならびに連携	徳野 吉田	健康危機管理学特別講義、産業保健学演習、環境保健学（令和 2 年度）
がん教育研究授業 社会と情報 プログラミング基礎	中村	県教育委員会、県がん教育協議会ほか主催 県立足柄高校の 1 年生の授業 5 コマ（令和 2 年度）
ME-BYO Japan 2020 来場者向けセミナー 講演	中村	「生活習慣と DNA の関係性を解き明かす「神奈川県みらい未病コホート研究」の取り組み」（令和 2 年度）
災害時の母子保健について ほか	吉田	小田原保健福祉事務所、平塚保健福祉事務所、神奈川県助産師会（令和元年度）
管理監督者対象メンタルヘルス対策講演会	津野	神奈川県警（令和 4 年度）

ME・BYO シンポジウム 2023 モデレーター・パネリスト	成松 渡邊	学公民連携で、地域とともに歩む私たちの未病改善 (令和 5 年度)
認知症シンポジウム ―認知症 とともに歩む―	成松	神奈川県立精神医療センター主催(令和 5 年度)
WHO エイジフレンドリーシティ 推進オンラインセミナー	Yoo	神奈川県政策局主催(令和 5 年度) 「演劇手法で行動変容を促す健康教育プログラム」
演劇手法を用いる健康教育方 法についてのワークショップ	Yoo	神奈川県医療保険課(令和 5 年度)
受援力～頼るスキルの磨き方 ～	吉田	神奈川県看護協会 (令和 5 年度)
赤ちゃんとお母さんのための防 災	吉田	神奈川県医療専門職連合会 (令和 5 年度)
お願い上手・断り上手	吉田	神奈川県立青少年センター (令和 5 年度)

その他の貢献（神奈川県、県内団体に関連した、委員・アドバイザー等の活動）

事業名等	担当教員	概要・主催・備考等
ヘルスケア・ニューフロンテ ィア検討会 委員	鄭 渡邊	政策を評価し、課題を抽出する検討会で事業整理・ 評価スキームにアドバイスを実施。(令和 3 年度)
神奈川県生活習慣対策委員 会 委員	津野	生活習慣病に関する調査及び研究、知識の普及啓 発を担う。(令和 3 年度～令和 5 年度)
神奈川県かながわ健康プラ ン 21 目標評価部会 委員	津野	計画の改定・目標の評価に関する専門的、技術的 事項を検討。(令和 3 年度～令和 5 年度)
新型コロナウイルス感染症 に対応した専門職人材の派 遣要請への対応	徳野 ほか※	搬送調整業務、陽性者発生時の施設調査等 県対策本部、県内保健福祉事務所へ派遣 (令和 2 ～5 年度) ※中村、中原、吉田、渡邊
DHEAT 研修事業	徳野 吉田	鎌倉保健福祉事務所 研修事業の内容検討 (令和 2 年度)
県公衆衛生協会企画・学術部 会 委員	吉田	学術集会ならびに学会誌の企画編纂 (令和 2 年度～)
県立循環器呼吸器病センタ ー研究倫理審査委員会委員	津野	臨床研究について、倫理的観点及び科学的観点か ら審査する。(令和 2～4 年度)
県立循環器呼吸器病センタ ー倫理委員会 委員	津野	倫理的配慮のもとで医療が行われ、患者等の人権 や生命の擁護への寄与を審議。(令和 2～5 年度)
神奈川 ME・BYO リビングラ ボ専門委員	大谷 ほか※	プロジェクトに専門的見地から審査や助言 (平成 29 年度～) ※鄭、成松、吉田、口羽、中村
神奈川県生活習慣病対策委 員会がん・循環器病対策部会	成松	神奈川県の生活習慣病対策に専門的見地から助言 (平成 28 年度～)

神奈川県生活習慣病対策委員会	成松	神奈川県の生活習慣病対策に専門的見地から助言 (平成 27 年度～)
ME・BYO サミット神奈川 2022 モデレーター	成松 吉田	成松：地域が進めるデータの利活用 吉田：しなやかな働き方・暮らし方 (令和 4 年度)
新型コロナウイルス・パンデミック関連政策 アドバイザー	Yoo	(令和 2 年度～)
神奈川県下水道疫学研究会 会長	Yoo	(令和 2 年度～)
神奈川県未病アンバサダー 事業アドバイザー	吉田	(平成 30 年度～)
ME・BYO BRAND 認定審査 委員	吉田	未病の見える化や改善につながる優れた商品・サービスの認定 (平成 27 年度～)
花王「女性未病実態全国調査 2020 (仮)」調査 監修	吉田	女性に対する未病・生理に関する調査 (令和 2 年度)
公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 かながわ福祉ビジョン策定委員会 委員	島岡	「2040 かながわ福祉ビジョン=私たちが目指す将来の福祉サービスと地域社会の姿」の策定 (令和 2 年度)
神奈川県と花王の協定による女性における未病改善の調査ならびに啓発事業	吉田	(令和 2 年度～)
かながわ健康プラン 21 目標 評価ワーキングチーム構成員	渡邊	神奈川県の健康増進計画である「かながわ健康プラン 21」の目標達成状況等について、取りまとめられた結果を踏まえて検討・評価。(令和 2 年度～)
神奈川県予防医学協会 健康・未病 学習教材 (高校生用副教材) 医療監修	吉田	「健康・未病」学習教材 (高校生用副教材) ならびに別冊：解説書 (監修：玉井拙夫、大谷泰夫、鈴木寛) における医療監修 (令和 2 年度)
妊娠期から産後までの切れ目ない支援ならびに児童虐待防止事業アドバイザー	吉田	平塚保健福祉事務所 ハイリスク妊婦症例検討と分析、統計学的解析 (令和元年度～)
歯及び口腔の健康づくり推進計画 ワーキング	久保田	神奈川県健康増進課 (令和 4 年度～)
神奈川県未病コンディショニングセンター機能実証事業研究会 座長	成松	(令和 5 年度)

【産官学連携】

（他大学・企業等との連携）

- ・ JST の研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム（START）スタートアップ・エコシステムに採択されたプラットフォーム GTIE（主幹機関：東京大学、早稲田大学、東京工業大学）に共同機関として参画し、高校生等にアントレプレナーシップ教育を拡大する日本科学技術振興機構の事業「EDGE-PRIME Initiative」に採択された。アントレプレナーシップをテーマに中高生を対象とした漫画を作成し、川崎市内の中学校で訪問事業等を実施した。引き続き、GTIE が運営する GAP ファンド等の起業活動支援プログラムや起業家育成プログラムへの参加を推進する。
- ・ 三菱地所株式会社及び株式会社ファムメディコと連携し、就労女性の心身の健康状態と、それに影響を与える要因との関連を明らかにすることを目的にデータ解析を行った。就労女性の月経困難症の重症度と心理的苦痛の関連性に関する研究成果が国際学術誌「International Journal of Environmental Research and Public Health」にてオンライン公開された。
- ・ 神奈川県、湘南ロボケアセンター株式会社、慶應義塾大学、日本体育大学と協働した、自立支援ロボットを活用した介護予防プログラムを介護現場に実装するための研究を行った。
- ・ 株式会社明治、株式会社メタジェン等と連携し、新型コロナウイルスワクチン抗体価と腸内環境や食習慣等との関連を分析する共同研究を実施した。
- ・ 株式会社新菱と協働し、水素含有ゼリーの経口摂取による抑うつ症状および認知機能への影響に関する共同研究を実施した。
- ・ アクトメッド株式会社と協働し、遺伝子パネルを活用したがん予防を受けることのできるプログラムを開発する共同研究を開始した。
- ・ 株式会社ファーストアセントと協働し、乳児啼泣音声および睡眠パターンの解析による自閉症スペクトラム患児早期発見に関する共同研究を開始した。
- ・ 株式会社 AIT、神奈川県立がんセンターと協働し、人工知能を活用した遺伝性乳がん卵巣がん症候群のカウンセリングシステムの開発を開始した。

（地域エコシステムの形成）

- ・ SHI では、CIP のプロジェクトと連携して、起業した者や起業を志す在学生・修了生等に対し、教員・専門家からの定期的な助言指導の機会を設け、学生等に寄り添った伴走支援を進めている。これにより、地域の課題を解決するスタートアップ企業が持続的に創出されるエコシステム（生態系）として発展させることを目指している。
- ・ また、本学発のベンチャーの後押しを通じたアントレプレナーの育成、イノベーションの創出に向け、「神奈川県立保健福祉大学発ベンチャー」の制度を創設し、これまで延べ 3 社（うち SHI 在学・卒業生関係 2 社）に称号を授与している。これらの企業に対しては、企業活動に係る様々な情報の提供及び本学ホームページ等における広報など、継続した支援を実施していく。

【国際協働】

（留学生）

- ・ ASEAN 諸国等からの優秀な留学生を受け入れることは、日本人学生にも大いに刺激を与えることから、留学生の積極的な受入とともに、文化や社会的背景、保健医療事情の異なる日本発の技術や社会システムに関する教育研究を留学生に提供することを目指している。
- ・ こうした理念にご賛同いただいた株式会社ファンケル様からの寄附金を活用し、平成 31 年度と令和 2 年度に入学したベトナム及びモンゴルの留学生に、令和 3 年度にはアンジェス株式会社様及び大学の目的積立金を活用し、ベトナム(2 名)、カンボジア、タイの留学生に奨学金を給付した。
その後は、大学の目的積立金を活用し、令和 4 年度にはベトナム、令和 5 年度にはアフガニスタン、ベトナム、カンボジア、令和 6 年度にはベトナム、カンボジア、ミャンマーの留学生に奨学金を給付している。
- ・ 今後、SHI において日本でのネットワークを培った留学生が帰国後、母国における保健医療への貢献や日本企業の海外市場開拓等に貢献することが期待される。

（海外大学との連携）

- ・ 保健医療や健康分野におけるイノベーションについて、教育・研究面で協働していくため、カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD：アメリカ合衆国）と平成 30 年 11 月に覚書を締結（令和 6 年 1 月に更新）し、令和元年 9 月から医療・ヘルスケア・ライフサイエンス分野におけるイノベーション・エコシステムについて深い知見を獲得するため、カリフォルニア大学サンディエゴ校を含む米国西海岸地域でのフィールド実習を行っている。（令和 5 年度は、6 年 2～3 月に実施）
- ・ また、令和 2～3 年度に、SHI・CIP の共催で、UCSD と「新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた研究開発の動向」および「日米におけるイノベーション・エコシステム」をテーマに、joint Seminar Series を計 4 回開催するとともに、「ベンチャー投資における意思決定演習」をテーマとするフィールド実習をオンラインで計 8 回実施した。
- ・ タイ王国のマヒドン大学公衆衛生学部及び医学部ラマティボディ病院との間で、平成 30 年に、学生の交流や共同研究などの学術連携を推進するため合意書を締結し、公衆衛生に関する知識や問題解決手法の習得、分野を横断した人材ネットワークの創出等を目的に、令和 2 年 2 月に SHI の学生がタイでのフィールド実習を行った。
また、令和 3 年 8～9 月には、同大学と共同で「保健医療システムとイノベーション」をテーマに計 5 回のオンラインワークショップを実施した。
さらに、取組の発展に向け、令和 4 年 3 月、同大学と教育、研究等の交流、合同会議、シンポジウム、その他の学術会議の開催に関する覚書を締結した。この覚書に基づき、同年 9 月にマヒドン大学医学部ラマティボディ病院の教員等がヘルスイノベー

ション研究科を訪問し、研究科の活動とともに、アジア・アフリカ向けの医療危機管理教育システムを提供する本学発ベンチャーの紹介を行うなど、相互の交流を深めた。令和5年10月にはマヒドン大学健康開発研究所の研究者がヘルスイノベーション研究科を訪問し、今後の協働について意見交換を行った。

- ・ タイ王国のコンケン大学と、令和3年2～3月に、ヘルスコミュニケーションをメインテーマに、全5回の「交通安全と健康に係るジョイントワークショップ」をオンラインで開催した。

また、令和4年3月には同大学と共同で「ヘルスプロモーションの動向と課題」をテーマに国際カンファレンスをオンラインで開催した。

令和5年1月には、大学間協定の第一段階として、SHIとコンケン大学看護学部の間で覚書を締結した。この覚書に基づき、「口腔衛生とヘルシーエイジング」をテーマにしたミニカンファレンスや、現地の病院、保健センターを訪問し、タイのプライマリーヘルスケアシステムを学ぶスタディーツアーを実施した。

令和5年度には、9月に障がい児者へのアプローチ、6年1月にアントレプレナーシップを、それぞれテーマとしてオンラインカンファレンスを実施した。

- ・ 令和4年3月に、ライフサイエンス・ヘルスケア分野の県・シンガポールオンライン会合「覚書を通じたシンガポールミッションの成果と今後の継続的な連携に向けて」を開催した。過去5年間のシンガポールと神奈川のパートナーシップの軌跡を総括し、今後の連携の一層の強化を図るため、ヘルスケア・ライフサイエンス分野における最先端技術や研究開発の取組みなどを、相互に動向を紹介・共有した。

（世界保健機構（WHO）との連携）

- ・ 神奈川県と連携してWHO臨床コンソーシアム会合やWHO専門家会合へ参画したほか、未病指標を通じたWHOとの連携、未病指標の今後の展望に関する講演会を神奈川県と共催するなど、WHOとの連携を推進した。
- ・ 令和4年3月には、「神奈川県・神奈川県立保健福祉大学連携オンラインセミナー」として、県と連携し、高齢者に優しいまち＝エイジフレンドリーシティの実現に向けて、WHOが推進する「高齢者のための包括的ケア」や、学術機関と自治体が連携して行う評価分析の取組などをご紹介するセミナーを開催、WHO職員の本学招聘教授による講演を実施した。

【研究活動】

・新型コロナウイルスに関する研究活動（令和2～5年度）（抜すい）

研究者	課題名
Yoo ほか※	新型コロナウイルス感染症下における県立大学と広域自治体の連携：神奈川県 EBPM プロジェクトの成果と課題(令和3年度～) ※渡邊、吉田、鄭
大西	・公共経済疫学とパンデミック対策の価値に基づく評価についての国際共同研究—COVID19 からの将来のパンデミック危機に向けての教訓についての価値に基づく研究(令和3年度)
島岡	・With/After コロナ下のオンライン授業：アントレプレナーシップ醸成に向けた チームワークの効果的な実施にかかる研究（令和2年度）
徳野	・音声を用いた COVID-19 に対する不安やストレスの解析(令和2年度) ・Distinguish the Severity of Illness Associated with Novel Coronavirus (COVID-19) Infection via Sustained Vowel Speech Features. [音声の重症度判定] (令和4年度) ・Severity Classification Using Dynamic Time Warping-Based Voice Biomarkers for Patients With COVID-19. (令和5年度) ・Distinguish the Severity of Illness Associated with Novel Coronavirus (COVID-19) Infection via Sustained Vowel Speech Features. (令和5年度)
徳野 吉田	神奈川県における新型コロナウイルス感染症への医療対応(令和4年度)
方 徳野 鄭	・A web visualization tool using T cell subsets as the predictor to evaluate covid-19 patient's severity. [重症度を予測する WEB ツールの開発] (令和2年度) https://doi.org/10.1371/journal.pone.0239695
中原	・Community surveillance by village health volunteers during the COVID-19 outbreak in Thailand. (令和2年度) ・Working group on heatstroke medical care during the COVID-19 epidemic. Heatstroke management during the COVID-19 epidemic: Recommendations from the experts in Japan. (令和2年度) ・Infection Control Strategy Using a Hybrid Resuscitation Room System During the COVID-19 Pandemic in Tokyo, Japan. (令和2年度) ・High incidence of heat illness and the potential burden on the health care system during the COVID-19 pandemic. (令和2年度) ・Japan's Slow Response to Improve Access to Inpatient Care for COVID-19 Patients. (令和3年度) ・A Successful Case of Cardiac Arrest due to Acute Myocarditis with COVID-19. (令和4年度) ・Efficient coordination system to deal with stagnated inter-hospital referrals during a COVID- 19 patient surge in Japan. (令和4年度)
成松	・COVID-19 対策における神奈川県立病院機構勤務看護師のストレス状況の調査 (令和3年度)

	・新型コロナウイルス感染症と公衆衛生(令和4年度) ・新型コロナウイルス感染症:感染症疫学の基礎と前向きゲノムコホート研究の応用.(令和4年度)
Yoo	産学官連携で取り組む、下水疫学を活用した神奈川県の新型コロナ対策と政策展開(令和4年度)
成松 中村	・新型コロナウイルス抗体保有者の生活習慣や腸内環境を解析する共同研究(令和2年度～) ・Impact of nurses' roles and burden on burnout during the COVID-19 pandemic. (令和4年度) ・Age group differences in psychological distress and leisure-time exercise/socio economic status during the COVID-19 pandemic. (令和5年度)
成松 中村 方	・ゲノムコホートを活用した COVID-19 に関する市中モニタリングと対策研究基盤知見などの創出(令和3年度)
中村 津野 成松	・COVID-19-related stigma and its relationship with mental wellbeing. (令和4年度)
久保田 成松	・COVID-19 と口腔衛生(令和4年度)
吉田	・新型コロナウイルス感染症とリプロダクティブ・ヘルス～全国避妊教育ネットワーク会員調査から明らかになった女性支援の課題～(令和4年度)
津野	・新型コロナウイルス感染症に関わる全国労働者オンライン調査(The Employee Cohort Study in the Covid-19pandemic in Japan. : E-COCO-J) (令和2年度～) https://plaza.umin.ac.jp/heart/e-coco-j/ ・日本における COVID-19 問題による社会・健康格差評価研究 (The Japan COVID-19 and Society Internet Survey: JACSIS) (令和2年度～) ・Did Children in Single-Parent Households Have a Higher Probability of Emotional Instability during the COVID-19 Pandemic? (令和4年度) ・Effects of workplace measures against COVID-19 on psychological distress of full-time employees. (令和4年度) ・COVID-19-Related Workplace Bullying and Customer Harassment Among Healthcare Workers Over the Time of the COVID-19 Outbreak. (令和4年度) ・COVID-19 vaccination did not improve employee mental health: A prospective study in an early phase of vaccination in Japan. (令和4年度) ・The effect of social restrictions, loss of social support, and loss of maternal autonomy on postpartum depression in 1 to 12-months postpartum women during the COVID-19 pandemic. (令和4年度)

	・新型コロナウイルス感染症流行下におけるオンラインでの産業保健面談の経験，満足度および課題(令和4年度) ・The effect of job strain and worksite social support on reported adverse reactions of COVID-19 vaccine. (令和4年度) ・Risk factors for workplace bullying, severe psychological distress and suicidal ideation during the COVID-19 pandemic among the general working population in Japan. (令和4年度) ・Association between meal frequency with others and psychological distress during the COVID-19 pandemic. (令和4年度) ・Effects of workplace measures against COVID-19 and employees' worry about them on the onset of major depressive episodes. (令和4年度) ・COVID-19 パンデミック下における共食頻度と精神的苦痛との関連(令和5年度)
渡邊	・地域の合意形成を加速化させるデジタルトランスフォーメーションの実現のための研究(令和3年度) ・高血圧患者におけるオンライン診療の評価(令和2年度～) ・携帯電話関連技術を用いた感染症対策に関する包括的検討(令和2年度)
Thomas Svensson	・Modelling of the COVID-19 pandemic in four countries(令和2年度) ・Longitudinal changes in physical activity of early-stage breast cancer survivors in Japan during and after the COVID-19 lockdown. (令和5年度)
鄭 吉田 渡邊	・新型コロナウイルス感染症下における県立大学と広域自治体の連携事例 神奈川県 EBPM プロジェクトの成果と課題(令和5年度)
Yoo 鄭	・日本における COVID-19 の臨床スクリーニング検査と組み合わせた下水サーベイランスの経済評価(令和5年度)

・神奈川県関連の研究の活動（令和2～5年度）

課題・項目名（実施主体）	担当教員	概要・備考
デジタルピアサポートアプリ「みんなチャレ」の行動変容へのインパクト評価に関するパイロット研究	成松 岡本 中村 齋藤	デジタルピアサポート「みんなチャレ」の利用による健康行動の継続とその背景要因について探索的な分析を行うとともに、大規模介入比較試験に向け、研究デザインの妥当性や実行可能性の検証も行う。（令和2年度～）
グローバルヘルスに還元するがん対策：Kanagawa Shanghai 比較共同研究	成松 中村 渡邊	県地域がん登録のデータを活用して、がんの患者動向を解析し、がん対策の評価につなげるとともに、上海のがんの動向を解析することでグローバルヘルスの向上に貢献することを目指す。（令和元年度）
神奈川県みらい未病コホート研究	中村 齋藤 方 成松	大規模ゲノムコホート研究で、神奈川県のみ病に取り組みの科学的評価や新たな取り組みの開発を行う。 （平成28年度～） https://www.me-byo-cohort.jp/
神奈川みらい未病コホート（ハイブリッドゲノムコホート研究）	齋藤 中村 方 成松	ゲノムコホート「神奈川県みらい未病コホート研究」の研究基盤を活用し、神奈川県と連携して、未病対策の新規技術の開発・評価を行っていく。ロボットスーツ HAL の実証研究なども行う。（令和元年度～）
新型コロナウイルスの不顕性感染の実態調査への協力	成松 ほか※	県内科医会の実施した COVID-19 抗体を用いたモニタリング調査にあたり、研究デザインなどのアドバイスをを行った。（令和2年度）※中村、方、Yoo、渡邊
「新型コロナウイルス対策に配慮した災害時の避難母子支援システム構築に向けた課題抽出」における神奈川県内での実証事業	吉田	新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた妊産婦・乳幼児向け防災研修ならびに福祉避難所（妊産婦・乳幼児）の体制整備について提言や検証を行った。 （令和2年度）
Evaluation of the validity and reliability of the 10-meter walk test using a smartphone application among Japanese older adults.	中村 渡邊 成松 鄭	マイ ME-BYO カルテに実装した未病指標の計測技術（歩行テスト）の実証（令和4年度）
Checking the validity and reliability of the Japanese version of the Mini-Cog using a smartphone application.	中村 渡邊 成松 鄭	日本語版 Mini-Cog の正当性・信頼性をスマホアプリで確認（令和4年度）

The ME-BYO index: A development and validation project of a novel comprehensive health index.	中村 渡邊 成松 鄭	未病指標の機能を向上させ、県民の効果的な行動変容の促進につなげる道筋を提示（令和5年度）
---	---------------------	--

【その他】

・新型コロナウイルス関係のその他の活動（令和2～5年度）

課題・項目名（実施主体）	担当教員	概要・備考
レギュラトリーサイエンス公開講座（第2回）「危機管理下における評価としてのレギュラトリーサイエンスのあり方」	ヘルスイ ノベーシ ョン研究 科	危機管理下における迅速な薬事承認の是非をテーマに公開講座を開催 危機におけるリスクとベネフィットの考量の難しさ、エビデンスレベルの引き下げに対する誘因の問題等について、再生医療法制の整備との比較の視点を踏まえながら講演者・パネリストとともに議論を行った。（令和4年2月）
医療用医薬品の安定確保策に関する関係者会議（厚生労働省）	坂巻	医療用医薬品の安定供給のためのスキームを新たに構築するとともに、安定確保医薬品リストのカテゴリー分類のための有識者会議（2020年3月～2021年4月）およびワーキンググループ（2020年10月～2021年4月）に参加した。
感染症対策情報戦略の緊急提言（日本ユーザビリティ医療情報化推進協議会）	坂巻	新型コロナ下での医療情報活用のための提言を策定し、提言を行った。提言策定のための「医療情報利活用推進委員会」に委員として参加した。
新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた熱中症診療に関するワーキンググループ（日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本感染症学会・日本呼吸器学会）	中原	ワーキンググループメンバーの一人として、新型コロナウイルス感染症流行下における熱中症対応の手引き作成
新型コロナウイルス感染症対策をふまえた災害時の母子保健支援（日本公衆衛生学会）	吉田	新型コロナウイルス関連情報特設サイトの開設、eラーニング教材・参考資料の作成 https://www.jsph.jp/covid/files/838AE7.pdf

2 イノベーション政策研究センターにおける主な取り組み

- ・ イノベーション政策研究センターでは、大学内シンクタンクという位置付けのもと、アカデミア、企業、行政等のステークホルダーとの協働、関係機関との連携を推進し、政策研究・政策立案支援・社会実装を目的とした領域横断的かつ革新的な研究プロジェクトを実施している。
- ・ 神奈川県シンクタンクとしても政策貢献を果たすべく、県が進める未病施策や保健医療データに関する取り組み等に対して大学が有する知見を提供した。
- ・ 新たに、イノベーション政策研究センターのシンクタンク機能を活かした取り組みとして、政策立案・政策提案に関する演習を目的としたフィールド実習を企画。神奈川県庁へ提言を行うなど、学習した内容を実践する場も提供した。
- ・ 引き続き、社会のニーズに応える観点から、県を始め様々なステークホルダーとの協働を通じて社会が実際に活用可能な成果を創出し、大学と社会とを結ぶ新たな結節点として機能することを目指していく。

【研究活動・地域連携】

イノベーション政策研究センター 実施プロジェクト（令和6年5月1日）

プロジェクト名	概 要
未病指標	神奈川県と連携し、未病指標の介入効果測定に関する実証事業を実施。日本体育大学との共同研究で、企業を対象にした実証研究を開始した。また、横浜市立大学との共同研究で、横浜市若葉台地区にて認知症予防に関する観察研究を開始した。また、未病コホート研究を活用した未病指標の実証研究プロジェクトに関する論文がFrontiers in Public Healthに公開された。 国際的な展開に向けて、シンガポール国立大学との共同研究を進め、データ解析等に着手。
保健医療データ活用	神奈川県と連携し、保健医療データの利活用に向けたデータ集積及び分析を推進。神奈川県内市町村及び県保健所の職員を対象に、保健医療データの活用に向けた研修を実施した。 市町村が保有する保健医療等データの、抽出・加工・分析することを通じて、市町村の健康増進事業の改善に向けた知見を提供。 県内の保健医療データを活用し、特定健診プログラムの効果を評価することで、健診等の実情に沿った形での介入効果の検証を実施。

女性の健康	働く女性の健康を軸に、就労環境、職場環境、生活習慣、食事のとり方や内容、働き方、周囲のサポートなど、女性の生活全般を捉えたうえで、都心部で働く女性の心身の健康状態を同定し、それに影響を与える要因との関連を解明するための調査研究を推進。 疫学調査をベースに設計した働く女性の健康実態についてのアンケート調査「働く女性 健康スコア」の発表（令和6年3月1日）。働く女性の月経随伴症状の重症度とプレゼンティーズムの関連性に関する研究論文が、国際学術誌でオンライン公開。
新型コロナウイルス・パンデミックの公衆衛生対策	神奈川県と連携し、新型コロナウイルス・パンデミックの公衆衛生対策に係るプロジェクトとして、県内の下水処理場にて定期的なサンプリングを実施した。下水疫学調査の経済性評価論文が米国疾病予防管理センターの出版する雑誌にオンライン掲載された。 研究者及び行政機関職員等により組織する下水疫学研究会を設置し検討を行っており、研究会の構成員は1都3県の衛生研究所関係者に拡大。5類移行後の活用なども含め知事との共同記者会見を実施したほか、首都圏サミットでも知事から下水検査の取組を説明。日本全国の主要都市で下水疫学調査を実施するという仮想的な政策についての支払い意思額を調査し論文として公表した。
予防医療教育プログラムの開発と評価	望ましい行動変容を促す健康教育プログラムの評価を実施。 健康教育プログラムの地域での普及に向け、ファシリテーター向けのマニュアルの作成とファシリテーターの育成を推進。 横浜市内の医療機関や葉山町における実証事業を実施。
ヘルスケア分野におけるイノベーションの推進施策	イノベーション創出および本学を中心とした地域のエコシステム形成、在学生・修了生の起業等を支援。 中高生を対象とした教育漫画の作成とワークショップ等の開催。 地域在住高齢者に対してeスポーツに着目した介護予防プログラムの提供と、行動変容および身体・認知機能への効果を検証。
神奈川県における健康の地域格差要因の解明	KDB データを使用して県民の健康行動（運動習慣、喫煙）や健康アウトカム（肥満、高血圧、HbA1c など）に市町村に差がみられるかどうかを明らかにする。
福祉の科学化に関する探索的な研究	福祉施設における従事者の負担軽減や入居者の QOL の向上を目指した検証等。
地方公共団体による公立病院への財政資金投入とアウトカムに関する研究	県立病院など公立病院の経営状況に着目し、その運営・維持に投入されている税金（補助金・繰入金）などの資源投入と、その結果得られる産出について現状を明らかにするとともに、公立病院維持のための税金投入のあり方を検証する。

（地域貢献の取組み）

- ・ 殿町地区の研究機関等が連携して実施した「キングスカイフロント夏の科学イベント 2023」において、小学校低学年を対象に「めざせ起業家！夢の街づくり」として、「好き」や「面白い」をもとに、自分の会社を考えてもらうプログラムを出展（令和 5 年度参加者 49 名）。
- ・ 川崎市立高校附属中学校の 2 年生約 120 名に対して、総合的な学習の時間の授業で、大学教員と学生ファシリテーターによる課題解決の実践的な手法を学ぶ、アントレプレナーシップワークショップを実施（令和 5 年 10 月、6 年 1 月の 2 回開催）。
- ・ 中学生等を中心とした世代にアントレプレナーシップへの関心を高めることを目的とした漫画「未来への扉 アントレプレナーシップ入門」を作成し、ワークショップ等で幅広く活用。

【産官学連携】

- ・ JST の研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム（START）スタートアップ・エコシステムに採択されたプラットフォーム GTIE（主幹機関：東京大学、早稲田大学、東京工業大学）に共同機関として参画し、高校生等にアントレプレナーシップ教育を拡大する日本科学技術振興機構の事業「EDGE-PRIME Initiative」に採択された。
- ・ 三菱地所株式会社及び株式会社ファムメディコと連携し、就労女性の心身の健康状態と、それに影響を与える要因との関連を明らかにすることを目的にデータ解析を行った。就労女性の月経困難症の重症度と心理的苦痛の関連性に関する研究成果が国際学術誌にてオンライン公開された。

【国際協働】

- ・ スタンフォード大学（アメリカ合衆国）と神奈川県が共催により開催するシンポジウムに本学が参画・協力している。令和 3 年 11 月には「未病で描き出すポストコロナの世界、そして未来」をテーマ（オンライン）に、令和 4 年 11 月には「コロナの調査研究と日米最新動向」をテーマに、それぞれ開催された。令和 5 年 7 月には、米国で開催された「第 1 回日米研究連携促進週間（Japan-US Research Collaboration Week）」に参画した。
- ・ メリーランド大学ボルチモア校の、老年学に関する研修プログラムを令和 5 年 6 月に受入れ、今後定期的な交流を継続することとなった。
- ・ シンガポールにおいて高齢者コホート研究を進めているシンガポール国立大学の疫学研究チームが令和 6 年 3 月に来校し、口腔衛生と認知症の関係に関する初期研究などについて共有するとともに、未病指標の共同研究の推進について合意した。